

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 水の会
施設名	足立区立青井おひさま保育園
報告者（役職）	工藤 和訓（園長）
住所・連絡先	東京都足立区青井1丁目7番6号
	☎ 03-5888-7063
	E-mail aoi-ohisama@mizunokai.ed.jp

○タイトル（保育計画）

「木漏れ日のベンチ」

○主な助成備品

- ・森の腰かけ（カブトムシ、クワガタ、テントウムシ、イモムシ、バッタ）
- ・動物ベンチ（シングル、サイド、ツーサイド）
- ・トトと仲間たちセット

1. 実施した保育計画策定の目的

本園は児童遊園地であった場所に建てられ、園舎の南東には桜など園舎の屋根を越すほどの大樹が並んでいます。開園時には、幼い子どもたちが活動しやすいように芝生を敷き、東京という都会でありながらも、草花やセミ・蟻などを身近に感じながら過ごしています。この大樹からの木漏れ日の中に白い園舎があります。南側には、砂場や木製遊具を設置した園庭もあり、活動に合わせて使っています。近くに公園もあり、走り回ったり、遊具で遊んだり年齢に合わせて自然の中で遊ぶ機会を設けています。しかし、梅雨が明けると瞬く間に熱中症警報が続き、幼い子どもたちが戸外で過ごす時間は限られてしまうのが現状です。少しでも吹く風の心地良さを感じ、自然に触れるときを大切にしていきたいと思います。南東側の庭の「木漏れ日のベンチ」構想を計画しました。

この南東側の庭は園舎に沿って細長く続いており、ところどころに大樹があることから運動的な活動をするにはやや手狭な空間となっていました。ベンチを置くことで子どもたちは、大樹を見上げ、地面や幹で動く虫たちを発見したり、落ち葉や木の実を集めて自然に興味関心をもっと持てるように考えました。そして、今まで子どもたちは遊び疲れたら、玄関前のコンクリートに腰を下ろして休んでいましたが、ベンチを点在させることで「まだ、ここにいたい！」という気持ちを大切に、運動面の向上や一休みしたらまた遊びだす好奇心旺盛な子どもたちのお休みの場にし、これまでとは違った視点から新たな発見をし喜びも増すことだと考えたのです。



2. 具体的な実施内容

ベンチがあることで、子どもたちの大好きなかくれんぼや椅子取りゲームのような簡単なゲームに使用することができ、遊びが広がっていきました。また、0歳児から2歳児の子どもたちの発育の観点から、椅座や跨座するのに適度の高低差や形状の異なるベンチを設けたことで、しがみついて登ることや上からジャンプするなど、子どもたちの個々の運動機能の促進にもつながっています。南東側庭の今の環境を生かしながら、動物や昆虫、恐竜など子どもたちの興味をそそるベンチを設けたことで子どもたちの心が動き、自らかかわろうとする姿や生きた虫を怖がっていた子どもが虫に親しみをもち、触れるようになるなど、様々な面で興味関心が膨らんでいます。また、子どもたちはごっこ遊びが大好き、動物や虫のベンチに木の実や草などの食べ物を運び食べさせてあげたり、自分の思いを話しかけたりしながら想像の世界を楽しんでいます。

今年の発表会では、本園の特色でもあるお話の世界を楽しみながら表現活動を行うのですが、その中に登場するキャラクターが0歳児ではミツバチのブンブンや1歳児では恐竜の竜ちゃん、2歳児ではハラペコアオムシさんになりきってのびのび自己表現する姿が見られました。子ども達の心を動かすベンチに触れ慣れ親しんできたことで、日々の保育、またその延長線上にある行事までも変化したのでした。



3. その成果と評価

夏の暑い日だけではなく1年を通して、森の仲間ベンチに座り休憩することで、子ども達の顔は自然と笑顔になります。それは、友達と一緒に話ししたり、地面を歩いている虫さんと距離が縮まり虫に触れるようになったり、ベンチの動物さんに食べ物を食べさせてあげたいと思う優しい心が芽生えたりしました。また、楽しい時間を友達と共有したことで仲間意識が強まり、一緒にごっこ遊びへと発展するなどコミュニケーションの場にもなりました。

「自然」は、子どもたちに計り知れない驚きや感動を与えてくれる素晴らしい環境です。そこに、子どもの心を動かすベンチという物的環境と保育士という適切な援助をする人的環境をプラスすることで、人格形成の基礎となる乳幼児期の生活の場である園生活をより充実できたと考えられます。

4. 今後の課題と展望

今後はベンチなどの位置替えを行うことを通して、宝探しなどのゲーム遊びを広げたり、他の玩具と組み合わせながらより二つの（想像・創造）性を膨らませていけるごっこ遊びを行えるように工夫や援助をしていきたいと考えております。現在足立区では、魅力ある地域の公園づくりと題して「にぎわい」と「やすらぎ」に分類し力を入れておりますが、本園でもベンチに座りながらゆったりしたやすらぎ（静）と、可愛い虫や動物たちのベンチなどを使いながら活発ににぎわえる遊び（動）の両面を取り入れ、「まだ、ここにいたい！」「もっと遊びたい！！」と思えるよう健やかな心と体づくりに力を入れていきたいと思っております。これから、どんな遊びが見られるか楽しみです。

以上